レッスン：11“M”

テーマ：現在のパーソナリティーとエレメンタル

MAC1 M.DOC ENM

私の兄弟・姉妹達、

スピリット、光、火の子供達よ。私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

　　このレッスンは現在のパーソナリティーおよびエレメンタルに関するテーマの続きであり、現在のパーソナリティーに関する最も重要な勉強をさらに明確にする助けとなります。

　　レッスン 10“M ”では現在のパーソナリティーの構成、いかにしてエレメンタルが作られるか、現在のパーソナリティーを地獄あるいは天国として築く上でエレメンタルが果たしている役割について述べました。実際、唯一エレメンタルだけが、パーソナリティーが生き、振動しているその状態を創造している、という事実にパーソナリティーは気づいていません。

　　私達は二元性の世界に住んでいます。この二元性の世界では、意味は人によって違います。ある人はある出来事を苦痛と感じても、別の人は同じ出来事を快適だと感じます。現在は喜びと感じるものが、数年後には不快、無関心あるいは苦しみとさえ感じるようになるかもしれません。

これは私達の気づきの結果です。苦痛は理解可能な何かであって、それは真実（real)ではありません。

　　確かに、意味から自由になるためには、意味を理解して、そこから脱するためには、意味を経験する必要があります。それ以外に方法はありません。しかし、それが事故であれ偶然の出来事であれ、苦痛の意味を罰と見なすべきではありません。なぜなら、結果の背後には常に原因があるからです。結果が生じる前が重要です。というのは、それぞれの瞬間が次の瞬間を創造するからです。

　　多くの人々がそう呼びたがっているようですが、しかし幸運と不運の原因は“宿命”ではありません。また、それは記述されているものでも、その人々のカルマでもありません。

各瞬間が次の瞬間を創造し、それゆえにそのパーソナリティーだけに責任がある、

ということを受け入れねばなりません。実際、

**全ての人はその瞬間の自分自身の状態に責任があるのです。**

もし私達が十分に注意を払わず、不運を作りだしたなら、次の瞬間には注意を払い、私達自身および他の人々がその不運から解放されるように努力する必要があります。常に結果の背後には原因があるのです。必ずしも私達に原因が見えるとは限りません。なぜなら、私達は一般に、原因と結果は人が意識しない短時間のうちに生じる、と考えがちだからです。

私達は最近の、および遥か昔の自分の行為、行動、態度、思考が原因として貯蔵されている大きな倉庫を無視しがちです。もし私達がその大小にかかわらず原因を創造するなら、それはアンバランスとして無意識の心の中に貯蔵され、状況が熟した時にその結果が生じ、そのようにしてバランスと均衡が取られるのです。

***結果が生じるまで、つまりバランスが回復され始めるまでにどのぐらいの期間、時間がかかるかは、恐らく誰も知ることはできません。***

　　最終的に結果が生じた時には、その原因はすでに遥か昔に忘れられており、潜在意識の表面にはその記憶がないため、そのパーソナリティーは遥か昔に生じて原因が創造された状況を思い出すことができません。そのため、現在のパーソナリティーは、なぜそのような不当な苦しみと不運を経験しなければならないのか、と訝るのです。

　　時間・空間の意味内における現在のパーソナリティーである私達の最も進んだレッスンとは、原因と結果の法則の結果を漠然と背負わないことです。

\*Page2

　　この原因・結果の法則をパーソナリティーのカルマと呼び、何らかの罰と見なして、そのパーソナリティーに降りかかった波動から抜け出すために必要な努力を払わない人々がいますが、私達はそのようであってはなりません。神が私達を護ることができるよう、機敏な状態、鋭く注意を向けている状態(alert)を絶えず保つことが重要です。どの神でしょうか？全ての人の中に内在する神です。

　　エレブナは会員に毎日エンドスコピーシス、つまり自己観察をするよう勧めます。それは一種の自己反省（内省）であり、現在のパーソナリティーがその成長の道を歩む助けとなるように、その日一日の出来事を振り返って見ることです。これは別の形の反省ではないか、と尋ねるかもしれません。

　　それは確かに一種の反省かもしれません。しかし、それは潜在意識の表面…（潜在意識の表面は私達の気づきのレベルを示します）…に記録されているもの全てを回顧することであり、それには潜在意識の心に暗示を与えるという仕事が伴います。実際、潜在意識に注意を向けるのが目的ではなく、望ましい結果を達成するために、潜在意識の表面に適切な思考の暗示を与える、という特別な仕事が目的です。望ましい結果とは、正しい適切な思考に基づいて、思考・行動の道を上昇することです。

　　現在のパーソナリティーにどのような結果が生じようとも、その背後にはわかろうと、わかるまいと常に原因があるのは自明の事実である、と述べました。すると、事故による純粋な肉体的病気もまたある原因の結果として分類されるのか、という疑問が湧いてきます。

　　その答えはイエスです。三つの体のアンバランスがなくても、ある原因の結果として肉体的病気にかかります。例えば、事故による負傷によって痛みを感じることがありますが、これは純粋に肉体的痛みです。それもまたアンバランスによって生じた病気です。あるいは、それは私達の肉体のダブル・エーテリックにアンバランスを詰める、と言ってもいいでしょう。肉体が苦しみを経験していれば、それは結果なのです。

**苦しみを経験しているのは実際の肉体ではなく、その肉体のダブル・エーテリックなのです。治癒は肉体上に直接なされるのではなく、ダブル・エーテリック上になされるのです；近代医学の薬物療法ですら、その肉体のダブル・エーテリック上に働くのです。**

答え：特定の薬は多数の実験、時には集中的なテストを通じて開発されています；基本的にテストは原因に応じて、現在のパーソナリティーの体（＊複数）のダブル・エーテリック上で行なわれます。

質問：私達自身あるいは他の人に降りかかった出来事を振り返ることによって、私達はそれと知らずに絶えずエレメンタルを作りだしています。エレメンタルが事故を引き起こすことはありえますか？

答え：勿論です。**エレメンタルはあなたが考えるもの全てを引き起こすことができます。現在のパーソナリティーとしての私達は、これらのエレメンタルの結果なのです。現在のパーソナリティーの思考・行動の仕方はこれらのエレメンタルの結果であり、現れとしての私達は特定のレベルの気づきなのです。**

　　残念なことに、現在のパーソナリティーとしての私達は、その本質である特徴（Characteristic of our Nature)を現していません。その理由は、私達が体験を経て、体験を通じて個別性を得ることができるようになり、誰か他の“私であること”(I'ness)とは違った存在として、“私は私である”(I am I)と言うことができるようになるためです。私達各人は、時間・空間の意味内において、意識としてのセルフ・エピグノーシスの異なった動きの結果、それぞれ異なった経験をします。たとえ非常に似通った経験をしているように見えても、モナドとしてのセルフ(Monad-Self)の個別性を現しているのです。創造界では、二人の人間が同じ経験をし、同じ個別性を有するということはありません。

　　これが最終的に獲得されるものです；実際には“獲得する”(gain)という言葉は正しくありません。というのは、私達が現そうとするものは、無顕現の状態において既に私達が有しているものだからです。

\*page3

　***それは質および能力として私達の中にあるのです。それゆえ、実際私達がしていることは、それを現わすために、自分自身の黙想(\*contemplation、観想、熟考、熟視などの意味もある）を経験することです。アウタルキー（＊自己充足の状態）内の全創造界はこの神の黙想の結果です。***

現在のパーソナリティーとしての私達は今、神の黙想の動きなのです。神の黙想は実際には私達自身の中、Spirit Being Holy Monad（霊的存在である聖なるモナド）としての私達自身の中にあるのです。

質問：私達は全員同じエレメンタルを使用しているのでしょうか？

答え：違います。しかし、過去に作られたエレメンタルにエネルギーを与えるということはあります。そして、それらに同調することによって今それらから影響されることはあり得ます。それゆえ、私達は決して過去に戻るべきではなく、エレブナは、決して過去に自分を連れ戻してくれるよう誰かに依頼することのないようにと、強くアドバイスします。忘却という聖なる法則、神によって作られた法則があります。それは私達が過去にとらわれることなく、現在のパーソナリティーと共に完全に進んでいけるようにするためです。それは過去に起きたあらゆる出来事との間に壁を置くようなものであり、それら過去の出来事は潜在意識および現在のパーソナリティーに貯蔵されています。この忘却の層を侵害するべきではありません。なぜなら、それは私達を護るためにあるからです。この壁が神の絶対英知において築かれたのなら、自分はもっと良く知っていると考えて、思い出さないというこの神の法則を破る私達とは何なのでしょう。

　　この忘却の壁の背後には、上昇という観点からは、現在のパーソナリティーとしての今の私達より優れたものは何もない、ということが想像できます。私達は常により良いセルフに向かって動いていると見なすなら、過去に戻るということは、今の自分よりも低い状態の“気づき”にある自分自身を発見することになります。意味というものは、今日私達が理解する意味とはかなり違っているかもしれません。気づきがより進んでいる現在の私達にとって、善の意味もかなり違っているでしょう。たとえ過去における私達の地位が現在と比べ“より聖なる”ように見えても、それでも過去における気づきが現在より進んでいることはありえません。

　　現在の私達の気づきでは許しがたいと思えることでも、その同じことが過去の“気づき”においては、差し支えないという枠内に入る可能性があります。私達は決して現在のパーソナリティーにこのような試み（＊過去退行）を経験させるべきではありません。なぜなら、それによって達成されるのはただ一つ、現在のパーソナリティーの妨害をすることだけです。

　　現在のパーソナリティーを助けるためにこの種の内省（＊自己反省）が必要な場合には、潜在意識の中に入る方法を知っている人が本人に代わってそうするべきです。

　　潜在意識は…そこには境界がなく、ひとたび潜在意識の海に下降し始めるやいなや、知らないうちに非常に深くて危険な水域に潜り込んでしまう可能性があるもの…と理解する必要があります。

　　影響を受ける危険性なしに潜在意識に入ることのできるパーソナリティーとは、現在のパーソナリティーの三つの体を完全に支配、マスターしているパーソナリティーに限られます。

さもないと、潜在意識の中で記録されている意味に影響され、それらを現れとして意識の表面に持ってくる、という危険があります。三つの体を支配、マスターしているパーソナリティーは、潜在意識の中に下降し、原因を見ますが、潜在意識の表面にそれらの原因を現れとしてもたらすことをしません。

　　三つの体をマスターしたパーソナリティーは、潜水服を着て深海に潜るダイバーに例えることができます…彼らは潜っていく未知の、知らない環境の中で身を守るために、適切な保護ユニフォームを着ます。汎宇宙的潜在意識とつながっているパーソナリティーは、時々そのようなつながりから浮上し、時には英知を表現し始めることさえあります。

　　英知と言いました；そうです、英知をもたらすことができますが、この英知はそのパーソナリティーの現れのレベルにおける英知ではありません。それは霊媒が他の実体（エンティティー）と共に体験するタイプのつながりであり、そのような実体は媒介者を通じて英知を語ります。そのような霊媒は自分が語る内容は自分の表現ではなく、自分を通じて他の実体が話していることを認識しています。

\*page4

　　なかには、それは思考・行動の仕方としての自分自身の表現レベル、霊的上昇のレベルである、と信じたがる霊媒もいます。そのような場合、そのパーソナリティーの表現は分裂します；時には、忍耐、愛、親切、英知などの模範的表現を示すことがありますが、ある時には…ストレスやプレッシャー、およびそのパーソナリティーの個人的利益が危うくなるような状況においては…そのパーソナリティーの表現は理想的なパーソナリティーとはほど遠いものとなります。このような場合、そのパーソナリティーの現れ、表現は現実にそのパーソナリティーが説教し、人々に語っている内容とはかけ離れたものとなるでしょう。

　　このようなパーソナリティーは常に、見破られるという恐怖の中で生きており、それゆえ特に見られている時には、役割を上手に演じるよう絶えず注意を払う必要に迫られています。しかしながら、時にはそのような現在のパーソナリティーは、うっかりしてそれ自身のレベルを表現してしまうこともあり、その信奉者たちを混乱に陥れます。

　　これは、パーソナリティーがある種の劇場に入って実際の自分以外の者のふりをする、という状況です。演じるための“劇場”のエピグノーシスを有するパーソナリティーは最も危険です。そして最も大きな役を演じます；パワーとしての能力を持ち、英知を知っており、思考・行動の仕方としてその英知を表現することができず、それが自分の本当の表現であるという印象を与える…このような場合、その特定のパーソナリティーおよび周囲の信奉者の両方に問題が生じるようになります。

　　あいにくこれらの人々は、王立演劇アカデミーに所属する俳優でさえ真似できないような技量を持つ最高の役者です。彼らは人生という舞台におけるほぼ完璧な役者です。多くの人々が神聖なるもの、神を求めて彼らに従い、それらの信奉者もまたそのような師を模範として見習います。信奉者たちに与えるある種の魅力を体験した従者たちの中で、そのような自分たちの師に対立し、批判する人は、この地球上では極めて少数です。

　　それゆえ、パーソナリティーに注意を集中させてはならないのです。つまり、パーソナリティーを通じて与えられ、表現されるものは全て、昔から繰り返し無数に示されています。この知識は汎宇宙的潜在意識の中にあるものであり、さもなければ人はそれを表現することはできません。ですから、知識および英知は現在のパーソナリティーに属するものではないのです。

　　この道に入る探究者はまず最初に、気づきとしての自分の本当のレベルを表現し、役者であることをやめる、という目的をもつべきです。そうすれば、確固とした健全な土台の上に建物が築かれるようになり、最終的には成長のテンポはずっと速いものとなります。

偉大な知識と英知を表現する人々は、思考・行動の仕方としての気づきのレベルにおいて、必ずしもそれらの知識と英知を表現しているとは限りません。

知識と英知は必ずしも、そのパーソナリティーが思考・行動の仕方として表現するものと等しいとは限りません。潜在意識は汎宇宙的潜在意識とつながっており、それに波長を合わせることによってそこにあるもの全てを表現できますが、それは気づきが上昇した結果ではないのです。ですから、過去生退行において英知を述べる人さえいますが、時にはそのような人のパーソナリティーはアンバランスであることもあるのです。

それゆえ、その人の知識と英知のレベルによってその人の気づきのレベルを判断することはできません。

　　私達は善と悪の意味、およびそれらの意味が様々なパーソナリティーによってどのように使われているか、を学ぶ必要があります。この問題にはより深い勉強と熟考(contemplation)が求められます。

　　現在のパーソナリティーにとって重要なのは、現在の瞬間です。なぜなら、この瞬間には二つの意義があるからです。ひとつには、現在を学ぶことによって、パーソナリティーは全ての過去は現在の中にあることが認識でき、二つ目は、

**現在は永遠への最も近いポイントだからです。**

過去において自分がどういう人であったかを知ることに心を奪われないでください。なぜなら、たとえあなたが過去にどういう人であっても、それは今のあなたの現在のパーソナリティーとしての思考・行動の仕方より優れていることはないからです。時には、助けるために現在のパーソナリティーにおける過去生退行が役立つことがありますが、それは非常に真剣なワークであり、決して催眠（ヒプノーシス）でやるべきではなく、極めて有能な人によって行なわれる必要があります。危険が生じた時には、もし許されれば不可視のヘルパーが助けます。

\*page5

　　しかし、私達は潜在意識と呼ばれる海を侵害すべきではありません。現在の思考・行動の仕方を過去の結果として受け入れるべきです。もし水をかき回すと、別の状況が上昇して表面に現れ、表現されている現在のパーソナリティーはその結果に苦しむことになります。本人に耐えられないような過去の出来事に同調する可能性もあり、その場合には三つの体の間のバランスがくずれてしまう結果となります。

　　重要なのは自分が現在どうあるかであり、過去にどうあったかではありません。前世において（＊現在よりも）より良い気づきを表現していたと見なすのは、イリュージョン（＊幻想）以外の何物でもありません。

　　現在のパーソナリティーとして私達は、何かをしようと決める時には常にその動機に注意を向ける必要があります。苦しみを与える時には、私達はそれが悪いことだとわかっており、また私達をそのような行動に駆り立てるその動機を認識しています。私達が愛、助け、忍耐を同胞の人間に差し出す時には、その動機をより注意深く吟味し、恐らくより徹底した考察が求められます。

現在のパーソナリティーは非常にずるくて、利口で、狡猾で、本能的な自己保存の感覚を具えているので、時には思考・行動の仕方として行動するよう私達を操作することによって、“永遠”に支持されようと最高の努力を払います。

本当は私達には敵は存在せず、唯一の危険な路地は自分の現在のパーソナリティーであり、それは極めて短期間の“幸福”を経験して恐ろしく長期間の“苦しみ”を生きるような状況へと、絶えず私達を導こうとします。

私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

　EREVNA/MAC11M.ENM/DOC/